

京都府北部地域の概要 2 自然環境

植生構造

京都府北部地域は地形・地質区分や植生から、大きく次の3つの地域に区分することができます。

丹後半島中央部

標高 500～700m程度の高原地帯（世屋高原）です。安山岩系の地質にシデ林、コナラ林、ミズナラ林が分布し、標高 600m以上になるとブナ林が出現する点の特徴です。このブナ林は生活資源として利用されてきた「里山ブナ林」です。また、高層湿原である大フケ湿原には貴重な動植物が生息しています。

大江山連峰

大江山連峰は蛇紋岩やかんらん岩から成り、また、暖温帯性と冷温帯性の植物群が交じりあう地域であるため、豊富な植物相が見られる点の特徴です。千丈ヶ嶽山頂にはススキやササの草原が、尾根筋にはブナの原生林やミズナラ林が、山麓にはコナラ林が分布しています。

由良川中流・丘陵地帯

由良川に中流域に広がる丘陵地帯です。山麓部は茶畑や果樹園、植林地、竹林などとしてよく利用されています。乾燥した尾根にはアカマツ林が広く分布しています。多様な植生がモザイク状に分布する典型的な里山景観がみられる点の特徴です。

貴重な自然資源

- ・京都府自然環境保全地域（丹後上世屋内山保全地域）
- ・京都の自然200選（五十河の「内山ブナ林」、大フケ湿原、大江山、由良川、他）

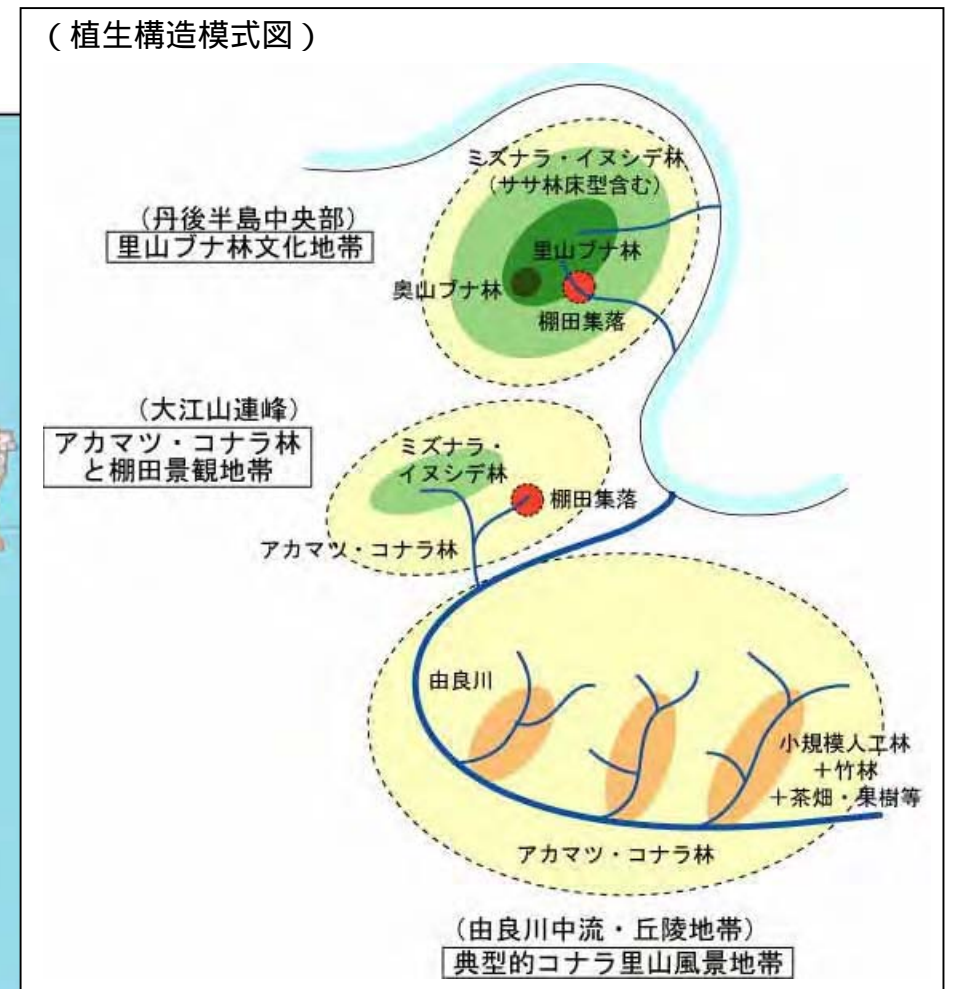
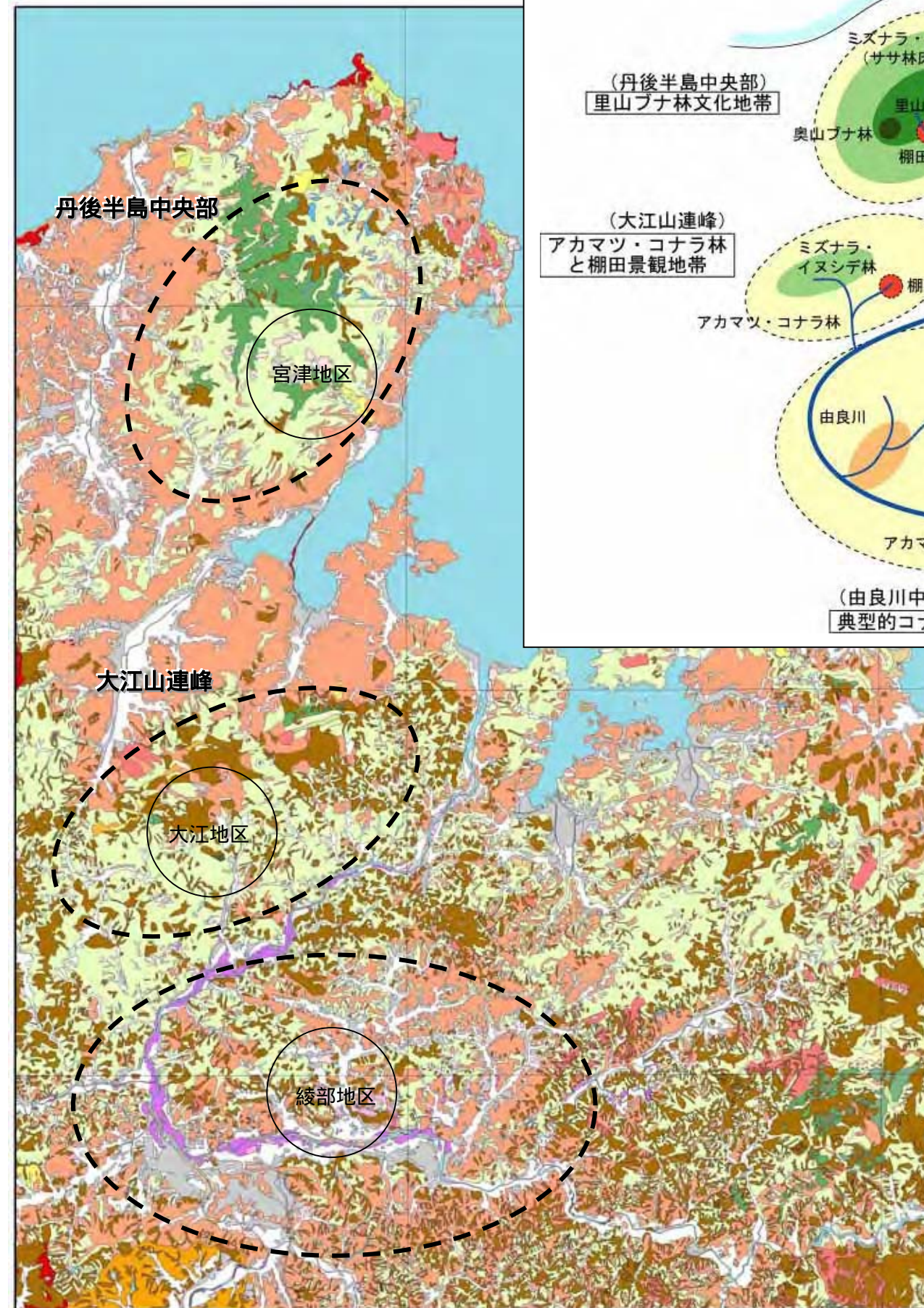


内山ブナ林の巨木「あがりこ」



大フケ湿原

（写真出典）山と溪谷社「日本の野鳥」、農振水産省ホームページ「農村地域の水辺の生き物」、環境省インターネット自然研、京都府ホームページ



- アカシデ・イヌシデ群落
- コナラ群落
- アカマツ群落
- アカマツ植林
- スギ・ヒノキ・サワラ植林
- ヒメアオキ・ブナ群落
- ミズナラ・リウブ群落
- ササ草原
- 水田
- 畑地
- 草地、伐採跡
- 集落、市街地
- 開放水域

地域戦略 [宮津地区]

宮津地区の里地里山

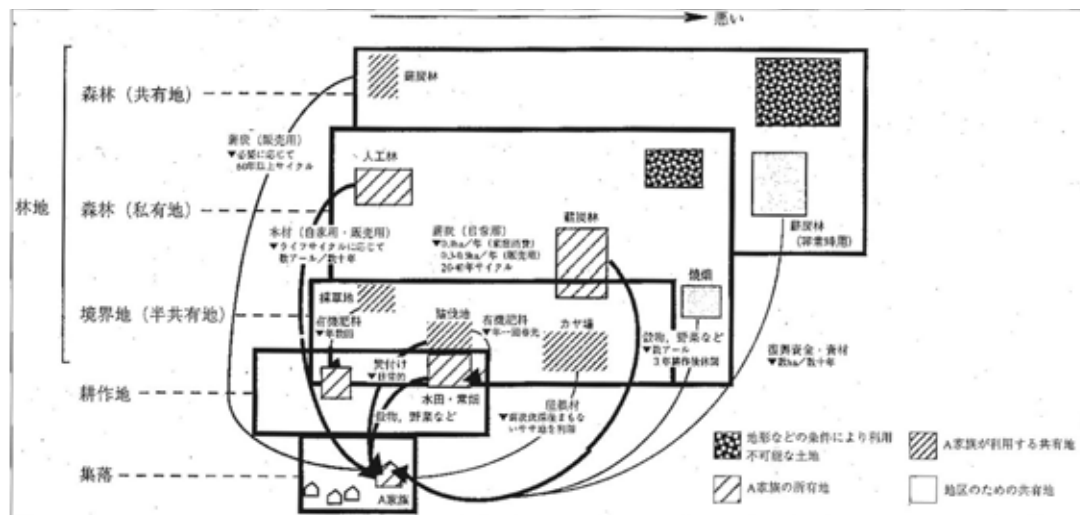
【自然環境】 アカシデ - イヌシデ群落を中心とする優れた二次林、ブナ林、湿地など保存価値の高い多様な自然環境が残されています。上世屋から五十河の一带は京都府自然環境保全地域に指定されています。さらに、京都府レッドデータに記載されている大フケ湿原を含めて国定公園への指定が検討されています。



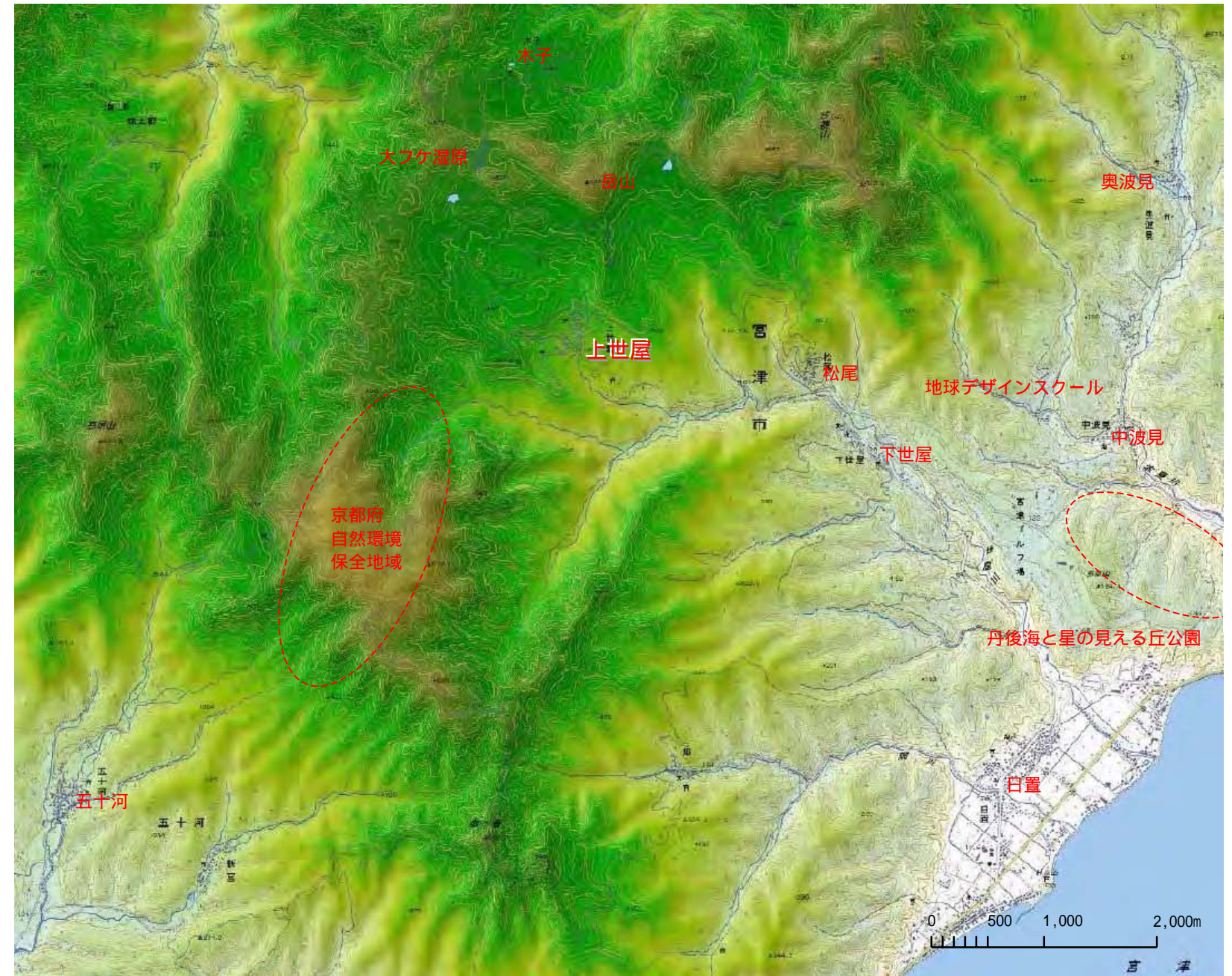
上世屋、五十河周辺のブナ林

大フケ湿原

【里山利用の歴史】 笹葺民家や藤織に代表される里山と関わりの深い生活文化が伝承されてきた地域です。里山ブナ林は時間的・空間的にきめ細かく使い分けられ、資源循環を伴う持続的な利用により維持されたものです。



聞き取り調査等により明らかにされた1990年頃の上世屋・五十河地区における里山利用の仕組み。(出典:深町加津枝「地域性をふまえた里山ブナ林の保全に関する研究」演習林報告第八号 平成14年2月 東京大学農学部付属演習林刊)



【景観】 丹後の豊かな里山に囲まれた美しい棚田と独特の集落空間構成が織り成す桃源郷のような景観がみられます。また、それら環境を形成してきた生業や文化が伝承されている点も特色です。

【市民活動】 複数のNPOが当地区をフィールドとしており、それぞれが多様な視点で地域の魅力や資源を活かした取り組みを行っています。平成18年8月には「丹後海と星の見える丘公園」が開園し、様々な体験プログラムが実施されています。



左: 丹後海と星の見える丘公園、中: 酢醸造会社が行っている紙マルチ農法による無農薬米の栽培
右上: 大学生らによるササの刈り取り、右下: 大学生らによるササ葺き屋根の修復

